

令和 6 年度

子ども議会 答弁書

【発言順】

令和 6 年 1 1 月 1 6 日 (土)

1 市内の学生の学習を支援する取組について

ただいまの 平形 ^{かいち} 介一議員のご質問にお答え申し上げます。

市内の学生の学習を支援する取組について、市施設への学習コーナーの設置など学生の学習を助けてくれるような活動はあるか、についてであります。施設における学習コーナーについては、土曜日、日曜日、国民の祝日に、テラス沼田4階防災会議室の一部を学生用の自習室として開放しているほか、日曜日、国民の祝日に、6階の市民活動拠点コミュニティテラスのロビーを開放しております。

また、曜日に限らず学習できるスペースとして、テラス沼田内のフリースペースのほか、団体等の利用がなければ、1階多目的スペースでも学習することができます。

図書館については、図書館の資料を利用した学習施設であるため自習室はありませんが、4階^{どくしょしつ}読書室であれば、自分で持ち込んだ参考書や問題集を利用した自習をすることができるほか、小論文やレポート

の書き方、進路に関わる情報など、利用者が必要としている資料や情報を探すための支援も行っているところであります。

本市では、より多くの市民の皆さまに、市有施設を有効にご利用いただけるよう取り組んでいるところであり、平形議員のご意見も踏まえ、引き続き、生涯^{つう}を通じて学び続けることができるよう、学習環境の整備及び支援に努めてまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、平形 ^{かいち} 介一議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 沼田市の将来の計画に関すること

ただいまの 篠原 涼^{りょうじ}司議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の将来の計画に関すること、についてであります。人口減少、少子高齢化が進む中、進学や就職等の理由で、沼田から離れていく若い世代が、「沼田に戻りたい」「沼田に住みたい」と思ってもらうための取組として、今年度からは、小中学校の給食費完全無償化による子育て支援にも取り組んでいるほか、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心を^{はぐく}育むために、自分が生まれ育ったふるさと沼田を知り、よさを学ぶ機会として、幼稚園、小学校及び中学校において、「ふるさと学習『ぬまた未来創造学』」をスタートしました。これらの^{しさく}施策に加え、若い世代の働く場所を創出するために、沼田横塚産業団地整備をはじめとする企業誘致の推進や、自ら事業を始めたい方を支援、育成するための「ぬまた起業塾」を開講しております。

今後も、篠原議員がおっしゃる「沼田に戻りたい」「沼田に住みた

い」という意識をより醸成できるよう、他市町村の事例も参考としながら、活気あふれる沼田市にするための施策^{しきく}に取り組んでまいりたいと考えおります。

以上申し上げまして、篠原 涼^{りょうじ}司議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 市民の健康管理に関すること

ただいまの ^{くらもち}倉持 ^{しゅうや}終弥議員のご質問にお答え申し上げます。

市民の健康管理に関すること、についてであります。全国的に医療における地域格差が広がっており、本市におきましても、医療従事者の人員不足や診療科の偏りなどは、大変重要な課題であると認識しており、利根沼田管内の市町村が連携して、救急医療や巡回診療を実施したり、産科の医師を確保したりするための費用を負担しているところであります。

今後も、利根郡の町村をはじめ、県内の各市と連携し、国や県などに、利根沼田圏域の安定した医療体制の整備に向けた要望をしてまいりたいと考えております。

次に、介護施設の人員不足、高齢者の増加と介護難民への対応についてであります。県の福祉人材確保対策室など、関係機関と連携して介護人材の確保・育成に努めるとともに、生き生き長寿のまちづく

り計画において、将来における高齢者人口や介護サービスの見込み量を推計することにより、必要なサービス提供体制の確保に努めております。

また、要介護者への虐待問題についてであります。沼田市地域包括支援センターを中心に、警察・医療・福祉などの関係機関が連携して、高齢者虐待の早期発見に努め、適切な支援の提供及び継続的な見守りを行っております。高齢者が安心して生活できるよう、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、倉持^{くらもち} 柊^{しゅうや} 弥議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 沼田市の環境問題について

ただいまの 田中 ^{すう}嵩鳥議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の環境問題について、沼田市では、大きな災害を防ぐためにどのような対策を行っているのかについて、であります。市では、自然の大災害に対して、被害を最小限にとどめ、市民皆様の命や財産を守るため、地域防災計画を策定し、防災訓練や出前講座の実施、企業や他^たの市区町村との協定締結など、様々な対策を行っております。

また、土砂災害や浸水被害のリスク等を示した防災マップを作成し、全世帯に配布しているほか、市から防災アプリやホッとメールぬまた、防災行政無線など、複数のツールにより、正確かつ迅速な情報発信に努めております。

次に、クマやイノシシなどの野生動物の出没問題に対して、どのような対策を行っているのかについてであります。市では、野生動物の出没対策として、利根町や池田地区を中心に、野生動物が住宅周辺

や農地などへ入って来ないように、進入防止柵や電気柵などの設置を行っているほか、クマやイノシシなどの出没や目撃の情報を受けた際には、有害鳥獣対策の専門家に依頼し出没箇所の現地調査を行うほか、被害があった農家等に、その後の対策についての助言を行っております。

加えて、野生動物出没に関する関係機関との情報共有や市民の安全確保を最優先としたうえで、沼田市鳥獣被害対策実施隊による捕獲も行っております。

また、市のホームページでは、クマとの遭遇を避けるための対処法や人里に寄せ付けないための注意点などの情報発信を行っております。

最後に、地球温暖化が原因とされる環境問題を解消するために、私達ができる取組についてであります。昨年4月に、家庭でできる取組をまとめた「エコの実プラン」の概要版を全世帯に配布しましたので、こちらをご参考にしていただければと考えております。

以上申し上げまして、田中 ^{すう} 嵩鳥議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 安心して学校に通うための通学路の安全確保について

ただいまの 土谷 結澄^{ゆず}議員のご質問にお答え申し上げます。

安心して学校に通うための通学路の安全確保について、であります
が、利南東小学校の通学路には、土谷議員がおっしゃるとおり、高低
差のある河岸段丘や、交通量の多い国道が含まれており、交通事故や
不審者、熊やイノシシ等の鳥獣による被害防止の観点から、学校や保
護者、教育委員会、警察、道路管理者、地域住民等が連携して、子供
たちの安全・安心の確保に努めているところであります。

本市におきましては、「沼田市通学路交通安全プログラム」を策定
し、関係者による定期的な通学路の合同点検を行い、薄くなった横断
歩道や停止線の引き直し、交差点における車止めの設置などの対策に
努めているところであります。また、昨年度は、利南東小学校の主要
な通学路の1つである学校坂の水漏れ箇所について、凍結による転倒
を防止するための工事を実施するなど、見守りパトロールも含め、

地域ぐるみで通学路の安全確保に向けて、必要な対策を講じているところでもあります。

また、利南東小学校で登下校時にスクールバスを導入することも研究しておりますが、児童の通学時間、始業や下校の時刻、財政面の負担や教職員の勤務時間なども課題となっているところであり、現在、検討を進めている市内小中学校の統廃合と合わせて、学校の移設や通学方法などについて、検討を行ってまいりたいと考えているところでもあります。

今後におきましても、スピード感をもって総合的な検討を進めるとともに、関係機関と連携した通学路の環境整備、学校や家庭・地域と連携した安全確保の取組を充実させることの両面から、安全・安心な登下校について対策を講じてまいる所存であります。

以上申し上げまして、土谷 ^{ゆず}結澄議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 雪道の道路対策について

ただいまの 小野 陽茉莉^{ひまり}議員のご質問にお答え申し上げます。

雪道の道路対策について、であります。道路の除雪は、交通量の多い道路を中心に市内の建設業者へ委託し、積雪が概ね１０センチメートル以上となったときに除雪を行っております。

また、気温が低く路面の凍結が予想されるときは、積雪が１０センチメートル未満であっても、凍結防止剤や滑り止めの砂などの散布を行い、スリップ事故などを未然に防ぐ対策を行っております。

特に市内の急な坂道など、事故発生の危険度が高い７箇所については、地下水を汲み上げて散水する消雪施設や、電気の熱を利用して融雪する装置などを設置して、スリップして上がれない車や、止まれない車などの事故防止対策を行っております。

しかし、市が行う除雪の対策だけでは、雪道の事故や渋滞を防ぐことは困難なため、ドライバーの皆様には、早めの冬用タイヤの交換や

タイヤチェーン装着で雪道対策を万全にし、安全運転をお願いしております。

また、市民の皆様には、除雪された雪を道路や歩道に出されると、路面凍結や路面が凸凹^{でこぼこ}になり、交通事故の原因になることから、道路に雪を出さないようお願いをするとともに、スムーズな除雪作業を行い、交通事故や渋滞の防止などに努めております。

以上申し上げまして、小野 陽茉莉^{ひまり}議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 学校の統合について

ただいまの 金子 ^{ひなた}日向議員のご質問にお答え申し上げます。

学校の統合について、であります。児童生徒数の減少により、学校が小規模化しており、未来を担う子供たちに、より良い学習環境を整えるため、保護者や地域の皆様との話し合いを大切に、学級数や通学時間等を考慮して、市内小中学校の学校再編に係る検討を重ねているところであります。

また、部活動におきましても、少子化により、複数校で合同チームを編成している種目や、欠員のまま団体戦に出場する学校があるなど、従来の体制のままでは運営することが難しくなっている状況もあります。部活動は、金子議員のおっしゃるとおり、スポーツや文化等に親しみ、切磋琢磨する中で、生涯の友人を得たり、夢や希望を抱いたりするなど、学校生活をより豊かにするものであります。さらに、思いやりの心や責任感、人間性・社会性の育成などにおいても、教育

的意義が高いと認識しているところであります。

そのため、昨年度より、大学講師やスポーツ・文化芸術団体の代表者等で組織する沼田市地域クラブ活動推進協議会を設置し、今後の部活動の在り方について検討を進めているところであり、学校の統廃合に関わらず、学校部活動を地域に展開することで、チャレンジしたい活動を継続的に取り組める環境や、専門的な技術指導を受けられる仕組みの構築、多世代交流による地域全体の活性化等を目指し、引き続き取り組んでまいりたいと考えているところであります。

以上申し上げまして、金子 ^{ひなた}日向議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 沼田のしぜんをいつまでも！沼電バス

ただいまの 磯貝 真歩議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田のしぜんをいつまでも！沼電バス、についてでありますが、
本市は自然環境に恵まれ、磯貝議員のおっしゃるとおり「おいしい空気」を感じることができます。この自然環境を守るためには、太陽光パネルの設置と電動バスの使用は、有効な提案と考えられます。

その一方で、太陽光パネルや蓄電池等の設置費用、維持管理、また、積雪や坂道を安全に走行できる電動バスの性能向上や、道のりを考えた運行体制などの課題が挙げられます。

本市では、豊かな森林や清流などの自然環境が都市部に比べて守られておりますので、訪れる多くの皆様に、この自然環境を知って、感じていただくことで、何度も訪れたいまちとして来訪者が増えることは大変望ましいことです。また、市民の皆様におきましても、豊富な自然環境に触れ、親しみを感じていただくことで、沼田市に住み続け

たいと思っていただけることは、人口減少を食い止めるために重要な
ことであります。

本市における豊かで貴重な自然環境を守り、次の世代に引き継いで
いくために、提案いただいた内容を踏まえまして、研究してまいりた
いと考えております。

以上申し上げまして、磯貝 ^{まほ}真歩議員のご質問に対する答弁とさせ
ていただきます。

1 利根町のお年寄りに便利な施設を作ってあげたい

ただいまの 井上 ^{いおり}伊織議員のご質問にお答え申し上げます。

利根町のお年寄りに便利な施設を作ってあげたい、についてであります。まず、お年寄りを大切にする施設や場面について、本市では、ふれあい福祉センターを設置し、高齢者相互のふれあいの促進や健康増進を図っております。また、地域の敬老事業に対する補助事業や敬老祝金の交付事業など、長年にわたる社会貢献に敬意を ^{ひょう}表 するとともに、長寿をお祝いする事業を実施しているほか、ひとり暮らし高齢者交流事業を実施して、交流や外出の機会を提供しております。

次に、利根町への介護施設の整備についてであります。現在、利根町にも通所介護を行う事業所はありますが、将来における高齢者人口や介護サービスの見込み量の推計を基に、サービス事業者の動向や今ある介護保険サービスとのバランスなどを考慮しながら検討しており、必要なときに必要なサービスを提供できるよう、引き続き取り

組んでまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、井上 ^{いおり}伊織議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 給食の牛乳について

ただいまの 小林 ^{あやね} 絢音議員のご質問にお答え申し上げます。

給食の牛乳について、であります。学校給食は、子供たちの適切な栄養摂取による健康の保持増進を図るとともに、日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力や、望ましい食習慣を養うことなどを目的として実施しているところであります。

給食の献立は、「学校給食実施基準」に基づき、様々な食品を適切に組み合わせながら、子供たちの発達段階に応じ、必要な栄養を摂取できるよう作成しております。

給食で牛乳を提供する理由につきましては、小林議員のご認識のとおり、牛乳にはカルシウムが多く含まれており、その吸収率が他の食品と比べて高く、不足しがちなカリウムや亜鉛、ビタミンB1、ビタミンB2なども含まれていることから、これらの栄養素を効果的に

摂取できることが大きな理由であります。カルシウムは、強い骨を作るだけでなく、筋肉の収縮や神経を安定させる作用もあり、牛乳を1本飲むことによって、1日のカルシウム推奨量の三分之一を摂取できることから、学校給食では積極的に取り入れているところであります。

牛乳と似た栄養素を持つ食品としましては、チーズやヨーグルトなどの乳製品、骨ごと食べられる小魚、豆腐や納豆などの大豆製品、野菜類や海藻などにもカルシウムが多く含まれます。牛乳の代わりにジョアを提供することもあります。牛乳と同様の栄養価をジョアで摂取することは難しいため、献立の組合せを考えた上で、現状は、月に2回程度の提供としております。

今後につきましても、小林議員のご意見も踏まえ、多くの児童生徒にとって、楽しい給食時間や充実した学校給食を提供できるよう、引き続き努めてまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、小林 絢音議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 高齢者への支援について

ただいまの 岡谷 ^{りょう た}綾太議員のご質問にお答え申し上げます。

高齢者への支援について、であります。まず、高齢者への買い物支援について、本市ではデマンドバスを運行しており、乗^{じょうこう}降場所は、スーパーマーケットを始め、市内に500カ所以上あります。さらに、高齢者を対象にバス利用時の運賃割引を行っており、買い物はもちろん、通院の際などにも便利にご利用いただくことができます。また、介護保険制度における訪問介護サービスでは、ヘルパーが生活必需品の買い物を代行するサービスがあります。その他、民間事業者が移動販売車を運行し、商店の少ない地域の買い物支援を行っております。

次に、高齢者が交流できる施設や機会についてであります。ふれあい福祉センターには、入浴や休憩のほか、陶芸、踊り、会議などに使える施設があり、高齢者を始めとして、多くの市民にご利用いただいております。また、ふれあい福祉センター等において、ひとり暮らし

しの高齢者を対象とした交流会を開催し、児童による歌や踊りの発表のほか、おいしいお弁当を提供するなど、ひとり暮らし高齢者の孤独感を和らげ、交流を図る事業を実施しております。

以上申し上げまして、岡谷 ^{りょう た}綾太議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 沼田公園周辺地域の活性化について

ただいまの 増田 結衣^{ゆい}議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田公園周辺地域の活性化について、であります。増田議員がおっしゃるとおり、沼田城が再建できれば、大きな観光資源となりますが、再建には莫大な費用がかかるため、市民の理解に加え、多くの方々の協力が必要であり、平成30年度から令和5年度まで行った沼田城跡調査の報告書の完成を待って、整備、活用の方向性を検討してまいりたいと考えております。

また、沼田女子高校の跡地の活用については、来年4月、沼田高校と沼田女子高校が統合し、現在の沼田高校の場所に、新生沼田高校が開校することに伴い、沼田女子高校の所有者である群馬県に対し、敷地取得の意思を表明いたしました。今後は、具体的な条件等について話し合うこととなりますが、沼田女子高校の敷地は、かつての沼田城内に位置し、利根沼田の歴史と教育が蓄積された大切な場所です。

また、敷地面積や立地においても、有効活用が期待できる重要な場所
であると考えており、取得することができた場合には、いただいたご
意見も参考にしながら、「学びや文化、交流の場」として、本市のま
ちづくりに活用していきたいと考えております。

以上申し上げまして、増田 ^{ゆい}結衣議員のご質問に対する答弁とさせ
ていただきます。

1 沼田市のライフラインに対する災害対策について

ただいまの 星野 航太^{こうた}議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市のライフラインに対する災害対策について、災害発生を想定した災害に強い街づくりの具体例について、であります。災害に強いまちづくりとは、災害に備え、災害の発生を予防し、災害による被害を最小限に抑えるためのまちづくりです。

沼田市では、災害による被害を抑えるために、防災マップや防災アプリ、防災行政無線などにより、災害情報を正確かつ迅速に伝達する手段の整備を図りながら、防災訓練や出前講座による啓発により、市民の防災意識の向上を図っております。

次に、道路や水道等のライフラインの迅速な復旧のための対策についてであります。道路につきましては、災害時には、落石や土砂の流出、道路、橋^{きょうりょう}梁、トンネルなどの破損などにより、通行が困難な状態になることが予想されます。道路の強靱化、緊急度の高い

きょうりょう
橋 梁やトンネルの耐震性を高める長寿命化の工事を行うとともに、

日頃から道路施設等の異常を迅速に発見し、速やかな応急対策を図る

ために、情報の収集や連絡体制の整備を図っております。

水道については、東日本大震災の時には、水道管が破損する被害が出ましたが、多くは耐震性のない古いものであったことから、現在は、よく曲がるポリエチレン管や、強度が高いダクティル^{ちゅうてつかん}鑄鉄管など、材質が耐震性に優れるものを用いたり、地震の揺れで接続部が抜けやすい仕組みや、地震の揺れを吸収する仕組みになっているものなどを使用した、水道管への布設替えを行っております。

また、道路・水路・河川等の災害時の応急対策が必要となった場合は、群馬県建設業協会沼田支部、利根町建設業協会と、水道管の破損などにより断水となった場合は、県内の事業者や日本水道協会と、それぞれ災害協定を締結しており、道路や水道の復旧、給水車の出動などの応援を要請し、迅速な対応を図ってまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、星野 ^{こうた}航太議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 有害鳥獣対策について

ただいまの 藤井 ^{あお い} 碧唯議員のご質問にお答え申し上げます。

有害鳥獣対策について、今までの対策で十分なのか、対策を強化していくのかについて、であります。本市では野生動物の出没対策として、利根町や池田地区を中心に野生動物が農地などへ入って来ないように、進入防止柵や電気柵などの設置を行っているほか、熊やイノシシなどの出没や目撃の情報を受けた際には、有害鳥獣対策の専門家に依頼し、出没箇所の現地調査を行うほか、被害があった農家等に、その後の対策についての助言を行っております。

加えて、野生動物出没に関する関係機関との情報共有や市民の安全確保を最優先としたうえで、沼田市鳥獣被害対策実施隊による捕獲も行っております。

また、市のホームページでは、クマとの遭遇を避けるための対処法や人里に寄せ付けないための注意点などの情報発信を行っております。

今後におきましても、現在の取り組みを継続していくとともに、必要箇所への侵入防止柵の設置等に加え、更なる対策強化についても検討していきたいと考えております。

以上申し上げまして、藤井 あおい 碧唯議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

１ 沼田にできるとうれしい商業施設は？

ただいまの はぎわら れんじ
萩原 蓮士議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田にできるとうれしい商業施設は？、についてであります。本市では、まちづくりの基本方針である、沼田都市計画マスタープランを改訂するために、平成３０年１月に市民アンケートを実施いたしました。アンケートにおきましては、商業地や商業施設のあり方を問う質問に、「ショッピングセンター等を郊外の幹線道路沿いに誘致」するのが良いと答えた方も多くいらっしゃいましたが、それ以上に多かったのが、「空き店舗の活用や転用」をすることや、「身近な店舗や商店街を充実」するのが良いとの答えでありました。

増加する空き店舗の問題を解決しながら商業を活性化することや、住まいに近く、普段使う商店街がより充実することを望む意見が多く、商業施設のあり方についても、市民一人ひとり、様々な考え方があることが伺えました。

^{はぎわら}
萩原議員のご提案も大変素晴らしいものであり、便利だな、うれしいなど、人々が喜ぶ施設をつくる視点は重要であります。

確かに、大型ショッピングモールが立地すれば、市内外からの集客が期待され、市内観光地への良い影響があるかもしれません。就業率が高まり、働く人の所得も向上し、税収が上がる可能性もあります。

一方で、施設ができた影響で、既存の商店や商店街から活気が失われ、事業者が撤退するなど、地域の空洞化が心配されます。

^{はぎわら}
萩原議員のように、多くの皆さんが市内の店舗で買い物をし、それぞれの所得を地域内で循環させ、地域経済を活性化させることが重要で、このような観点を踏まえつつ、ショッピングモールをはじめとした施設の立地を研究・検討すべきですが、^{はぎわら}萩原議員の意見のとおり、アンケートなどを活用して市民一人ひとりの意見やニーズを聞きながら、人々が喜ぶまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、^{はぎわら}萩原 ^{れんじ}蓮士議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 沼田市の自然環境問題について

ただいまの おおだけ 大竹 しょうた 翔太議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の自然環境問題について、であります。 おおだけ 大竹議員がおっしゃるとおり、本市にとって自然は最大の魅力であると考えております。自然環境を守りつつ、持続可能な都市の発展を実現するためには、様々な問題への対応を視野に入れた都市構造が求められており、本市では、「沼田都市計画マスタープラン」を策定し、「豊かな自然とまちの魅力を活かした、こころ豊かに暮らせるまちづくり」を基本理念として、まちづくりに取り組んでおります。

また、今後の具体的な自然環境保全の方針についてどのようなことを心がけているのかについてであります。特定の環境問題ごとに個別に対処するだけでなく、環境そのものを総合的に捉え、計画的な しきく 施策を講じていくことが必要と考え、本市では、「沼田市第二次環境基本計画」を策定し、環境問題に取り組んでおります。この計画では、

「自然環境の保全と再生」「自然との共生」「生活環境の保全」

「循環型社会の構築」「地球温暖化の防止」「協働による環境像の実現」を6本の柱とし、重点施策^{しきく}を設定し、環境の保全を推進しております。

次に、都市開発と自然環境保護のバランスをどうとるのかについてありますが、「沼田都市計画マスタープラン」では、豊かな自然環境の保全・活用として、都市と自然が調和した美しい景観を形成することなどが方針として定められているほか、市域の外殻^{がいかく}を形成している山岳地域は、自然環境保全域として位置づけております。

また、新たな取組を計画しているのかについてありますが、本市では、2050年までに二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言いたしました。この宣言内容を実現するため、「沼田市地球温暖化対策実行計画 エコの実プラン」を策定し、再生可能エネルギーの導入促進や森林の整備・保全及び森林資源の利用推進などの取組を進めているところです。

これらの市にとって重要な計画を策定する際には、沼田市市民意見
提出手続（パブリックコメント）を実施して、市民からの声を反映す
ることに努めております。

以上申し上げまして、大竹^{おおだけ} 翔太^{しょうた}議員のご質問に対する答弁とさ
せていただきます。

1 住み続けたいくなる将来の沼田市の計画について

ただいまの 井口 彩矢芽^{あやめ}議員のご質問にお答え申し上げます。

住み続けたいくなる将来の沼田市の計画について、であります、
現在、本市では「スポーツを目的とした運動公園」、「様々な利活用
をするための総合公園」、「近隣住民のための街区公園」など１７箇
所の都市公園を管理しております。

遊具については、その１７公園のうち１４公園で設置しており、各
公園の遊具は、地域の特色を活かしたデザインや機能となっており、
誰もが、憩いの場として安全にご利用いただけるよう、施設の更新や
維持管理に努めているところであります。

井口議員のご提案のとおり、子どもたちの交流の場所や、お年寄り
が休めるような場所の整備は、人々が住み続けたいと思うためには重
要なものと認識しておりますので、まずは現在ある公園の施設を長期
間有効に利用できるよう、工夫をしていきたいと考えております。

また、遊具の増設や新しい公園の整備については、利用者の声を聞きながら、人々が住み続けたいと思うような沼田市になるように、検討してまいりたいと考えております。

なお、沼田市のホームページには沼田駅や沼田小学校の近くの公園以外の「公園・広場」の詳細が掲載してありますので、井口議員にもお出かけいただき、また、ご意見などをいただければと思います。

以上申し上げまして、井口 ^{あやめ} 彩矢芽議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 避難所に関する予算について

ただいまの 荒井 ちせ議員のご質問にお答え申し上げます。

避難所に関する予算について、であります。避難所は、災害が起きたとき、市民の生命と安全確保を目的として、緊急に避難する場所であり、水道や電気、ガスなどのライフラインが復旧するまで、被災者が共同で生活する場所になります。また、避難者にだけでなく、地域の皆さんが必要とする情報や、水、食料、物資を提供するなど、地域の復旧・復興を支援するための拠点施設としての重要な役割も担います。

沼田市では、住民にとって身近な施設である地域の学校や集会所など45カ所を避難所として指定しておりますが、災害時に避難所を開設するときは、市からの依頼により施設管理者が開設し、自主防災会などの地域住民の皆さまが協力・連携して運営することになります。

なお、多那婦人の家につきましては、荒井議員がご指摘のとおり、

耐震性が確保されていないため、地震による災害時は、避難所として開設ができませんので、多那小中学校を避難所として開設することになります。一方、地震以外の災害時には、地域にとって身近な施設である多那婦人の家を避難所として開設する場合がありますので、災害の規模や状況により、どこの避難所が開設されるのかなど、市から発信される情報により、自分や家族の安全を確保したうえで、避難をしていただきたいと思います。

避難所に関する予算につきましては、防災情報の伝達手段や資機材の整備のほか、避難時に備える食料、飲料水、簡易トイレ、毛布などの備蓄品の購入と備蓄倉庫の整備を行っております。

また、今後避難所に使う予算は増えていくのかについてですが、実際に被災された地域で避難生活をされている方や避難所運営に関わっている方などの情報なども参考にして、効率的に避難所に関わる備蓄品などの充実や体制整備に取り組んでまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、^{あら い}荒井 ちせ議員のご質問に対する答弁と

させていただきます。

１ 沼田市をもっと良くするために

ただいまの 井上 ^{あんな}杏菜議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市をもっと良くするために、まず、「通勤や通学の時のバスの本数を増やすこと」についてであります。自動車の普及や人口減少によるバス利用者の減少に伴い、本市におけるバス運行事業は、事業者が自主的に運行する路線と、市が補助することで運行を継続している路線があります。^{あさゆう}朝夕の通勤や通学需要を考慮し、一部、路線形態を残しての運行や、市民の日常生活に必要な交通手段を確保するため、令和４年３月からデマンドバスの運行を始めましたが、観光客の利便性向上を図るまでには至っておりませんので、今後の公共交通の在り方について、皆さんの意見を伺いながら、より良いものにしていきたいと考えております。

次に、「子育てのしやすい環境や地域の人たちと関わりができるような集まれる場所づくり」についてであります。現在本市では、

就学前のお子さんと保護者の方が、気軽に集い、楽しく過ごしていただけるよう、テラス沼田内の子ども広場、沼田幼稚園子育て支援センター、沼田めぐみこども園チャイルドハウスめぐみの、3か所の地域子育て支援拠点を設置し、子育て中の親子の交流、子育ての不安や悩みを相談できる場を提供して、子育てのしやすい環境づくりを行っております。

また、地域の人たちの話し合いや活動の場、交流の場として、市民活動センターや各地区コミュニティセンターをご利用いただいておりますが、各町の集会所、公民館などの既存施設も含め、有効活用していただきたいと考えております。

少子高齢化や人口減少が進む中、誰もが生き生きと楽しく、安心安全に暮らしていけるよう、様々な施策^{しさく}を推進してまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、井上 ^{あんな}杏菜議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 人と自然がふれ合える森林公園の増設について

ただいまの 関上 ^{な な}楠菜議員のご質問にお答え申し上げます。

人と自然がふれ合える森林公園の増設について、であります。森林公園とは、森林が持つ優れた自然環境を保全するとともに、市民の保健休養、学習の場として広く市民の利用に供することと、環境保全の啓発を目的とした施設であり、市内には群馬県が設置した「21世紀の森」があります。沼田市でも都市公園を市内各所に設置しておりますが、設置にあたっては植栽などに配慮し、身近に、自然にふれあえる憩いの場所として維持管理を行っているところであります。現在、木田坂周辺には十王公園があり、利南地区には利南運動公園がありますので、これらの公園において、関上議員のご提案も参考にし、子どもからお年寄りまで楽しんでもらえるような公園となるよう、検討を進めてまいりたいと考えております。

森林学習の観点では、令和6年度に「たんばら・森林(もり)の

学校」を市内全小学校の４年生を対象に実施し、ブナ^{りん}林が原生林に近い状態で保存されている玉原高原の散策や、ブナの^{ようぼく}幼木を移植する活動などを通して、玉原高原のすばらしさを理解し、「森林文化都市ぬまた」に対する誇りと愛着を醸成しており、今後も自然環境の大切さを伝えてまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、関上 ^{な な}楠菜議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

１ 沼田市の現状と発展について

ただいまの ^{いしがみ}石神 ^{ながみつ}長光議員のご質問にお答え申し上げます。

沼田市の現状と発展について、であります。まず、様々な環境整備をすることにつきましては、現在、母子や子供たちを援助、支援するため、保育料の軽減やチャイルドシート購入費用の助成などの経済的負担の軽減に努めているほか、働きながら子育てをされているご家庭を支援するため、放課後児童クラブやファミリーサポートセンター、病児保育などの事業を実施しております。

また、働ける場所を増やしたり、新たな雇用を創出したりするために、「ぬまた起業塾」を開講し、創業者の育成、支援を図っているほか、横塚町地内に産業団地を整備し、企業誘致を積極的に推進しております。

次に、公共交通機関の再整備と観光資源の活用については、公共交通の利用者が減少する中、市民の日常生活に必要な交通手段を確保

するため、令和４年３月からデマンドバスの運行を始めました。また、沼田の特産品である果物や自然を生かした商品開発として、「ぬまたブランド農産物」の認証や、りんご狩りに訪れたお客様が手ぶらでピクニックを楽しめる「沼田ピクニック」のレンタルサービスなども行っております。本市の観光振興において、バスなどの２次交通の充実は大きな課題でありますので、商品開発と併せて研究してまいりたいと考えております。

次に、SNSでの情報発信についてであります。発信の方法や内容を若者と一緒につくる提案は、高い発信効果が期待できるとともに、とても有効な手段であると考えますので、是非ご意見などをお聞かせいただければと思います。

以上申し上げまして、石神^{いしがみ} 長光^{ながみつ}議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 だれもが休める「ひんやりスポット」の設置について

ただいまの 井田 ^{あいり}愛莉議員のご質問にお答え申し上げます。

だれもが休める「ひんやりスポット」の設置について、であります
が、近年では、過去に例を見ない猛暑が観測され、全国各地で熱中症
による被害者が増加しており、登下校する生徒、児童の皆様には、暑
さによる大きな負担があるものと考えております。こうした中で、通
学路や生活道路にひんやりスポットを設置することは、生徒、児童、
高齢者などの皆様の暑さ対策として効果的であり、健康被害を未然に
防止する重要な取組であると考えております。

全国的には、井田議員のおっしゃる暑さ対策の取組である
クーリング シェルターや、省エネ対策を目的としたクール シェア
スポットの設置など、各自治体での取組が進んでおります。

これらの設置場所については、時間や費用を掛けない手段として、
既にある公共施設の活用や、地域事業者、市民皆様のご協力により、

一時的に休憩場所を提供していただくなどの方法が考えられます。

提案いただいた内容を踏まえまして、様々な手法について、研究してまいりたいと考えております。

以上申し上げまして、井田 ^{あいり} 愛莉議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 耕作放棄地について

ただいまの 森下 ^{はる}波留議員のご質問にお答え申し上げます。

耕作放棄地について、であります。再生利用に向けた取り組みとして、本市では荒廃農地を借り受けて農地を再生利用する担い手へ補助金を交付する事業を行っているほか、農業技術支援を専門とする群馬県利根沼田農業事務所の普及指導員と協力し、再生利用に伴う農業技術の支援を行っております。

また、農業委員会では農地利用最適化推進委員会を中心に、農地の利用状況調査を実施し、耕作放棄地については所有者に今後の意向を確認しております。意向確認で農地を貸したい、または売りたいという相談があった場合には、農業委員及び農地利用最適化推進委員会が中心となり、借り手や買い手のマッチングを行います。本市は、中山間地域特有の傾斜のある農地も多く、大型農業機械の入らない農地は担い手を見つけるのが難しい状況ですが、農地を一元的に管理している

群馬県農地中間管理機構とも連携し、対応していきたいと考えております。

S N S 等を用いた情報の発信につきましては、セキュリティなど、クリアしなければならない課題があり、すぐに実施することは難しいと考えますが、市ホームページの活用など、情報発信の方法を研究してまいりたいと考えております。

以上申し上げます、森下 ^{はる}波留議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 小学生の登下校について

ただいまの 高橋 ^{ゆき か}志芽議員のご質問にお答え申し上げます。

小学生の登下校について、であります。本市におきましては、安全を第一に考え、学校やＰＴＡ、教育委員会、警察、道路管理者と、定期的な通学路の合同点検を行ったり、交通事故の防止、熊やイノシシ等の鳥獣、不審者からの被害防止、台風や大雪、土砂崩れ等、災害に対する観点から、家庭や地域と連携したりするなど、安全管理に努めているところであります。

登下校時の熱中症対策としましては、涼しい服装や帽子の着用を推奨するほか、適切に水分補給したり、持ち運ぶ教材や学習用具を減らし、登下校の際の児童の負担を減らしたりするなど、各学校で配慮や工夫をしているところです。

通学方法については、高橋議員がおっしゃるとおり、本市においては、学校によって通学区域が広大だったり、山間部や河岸段丘による

高低差があったりするなど、地理的条件や交通手段、通学時間等も様々となっております。

スクールバスは、遠距離通学の児童生徒のために運行することを基本としてきており、それぞれの小学校にスクールバスを導入することは、財政面の負担や運転手の確保等の課題があります。そのため、引き続き、家庭や地域と連携し、知恵を出し合い、日々の安全確保に努めるとともに、急速に進む少子化を背景に、現在、市内小中学校の再編について検討を進めているところであり、児童への通学による負担等も考慮して、スクールバスの導入を検討する必要があると考えているところであります。

以上申し上げまして、高橋 ^{ゆき か} 志芽議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

1 若者が将来住みたいと思える町づくり

ただいまの 金井 ^{あおば}碧羽議員のご質問にお答え申し上げます。

若者が将来住みたいと思える町づくり、についてであります、
民間の有識者グループ「人口戦略会議」は、全国の4割以上に当たる
744の自治体が、2050年までに20代から30代の女性が半減
し人口減少が進むことで、将来的には消滅する可能性があると発表し
ております。群馬県内では35市町村のうち20市町村が該当とされ
ており、残念ながら沼田市もその中の一つであります、結果を真摯
に受け止めるとともに、この状況を打破したいと考えております。

今後のまちづくりにおきましては、金井議員がおっしゃるとおり、
若者が将来住みたいと思える施策^{しさく}が重要であると認識しております。
現在、本市では、安定した雇用の創出により、特に若者層^{わかものそう}、子育て
層の定着を図るため、沼田横塚産業団地の整備をはじめとする企業誘
致を推進しているほか、働きながら子育てをされているご家庭を支援

するため、放課後児童クラブやファミリーサポートセンター、病児保育などの事業も実施しております。

また、今年度からは、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心を育むために、自分が生まれ育ったふるさと沼田を知り、よさを学ぶ機会として、幼稚園、小学校及び中学校において、「ふるさと学習『ぬまた未来創造学』」によるカリキュラムを実施しており、若者の

あいきようしん
愛郷心を育てたいと考えております。

以上申し上げまして、金井 あおば 碧羽議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。